

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2012年3月)

発表日2012年5月10日(木)

～季節調整値では黒字幅がやや縮小。貿易収支の赤字を所得収支の黒字が支える構図が継続～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 大塚 崇広

T E L : 03-5221-4526

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			所得収支
					貿易収支	サービス収支	
11	1月	5,478	12,911	3,498	3,684	▲ 186	10,452
	2月	17,008	12,473	3,718	4,865	▲ 1,147	11,072
	3月	17,386	9,485	▲ 1,282	528	▲ 1,811	11,349
	4月	4,239	5,755	▲ 6,041	▲ 4,650	▲ 1,390	12,613
	5月	5,744	3,525	▲ 7,517	▲ 6,314	▲ 1,203	11,945
	6月	5,389	9,590	▲ 1,107	35	▲ 1,142	11,670
	7月	10,537	8,237	▲ 2,263	▲ 582	▲ 1,681	11,385
	8月	4,363	6,971	▲ 4,008	▲ 2,059	▲ 1,949	11,808
	9月	16,107	10,255	▲ 1,210	227	▲ 1,438	12,250
	10月	5,339	4,703	▲ 7,409	▲ 5,363	▲ 2,046	12,717
	11月	1,261	5,123	▲ 5,920	▲ 4,047	▲ 1,873	12,193
	12月	2,657	6,991	▲ 4,271	▲ 2,441	▲ 1,829	12,367
12	1月	▲ 4,373	1,388	▲ 7,561	▲ 6,975	▲ 585	10,300
	2月	11,778	8,562	▲ 2,608	▲ 425	▲ 2,183	11,595
	3月	15,894	7,855	▲ 5,049	▲ 3,723	▲ 1,327	13,821

(出所) 財務省「国際収支統計」

○ 3月の経常収支は季節調整値ではやや縮小

3月の経常収支は原数値で15,894億円の黒字と、コンセンサス（14,490億円、レンジ：7,930億円～16,679億円）をやや上回る結果となった。原数値で見ると経常収支は高水準であるが、これは利子や配当の支払い時期の関係で3月は所得収支の黒字が大きくなりやすいことなどの季節的な要因が大きい。また、前年比で見ても、東日本大震災で下押しされた昨年の3月の結果の裏が出るといった問題があるため、実勢としては季節調整値で見る方が良いであろう。

経常収支を季節調整値で見ると、7,855億円の黒字と前月（8,562億円）から黒字幅がやや縮小した。主因は貿易収支の赤字幅の拡大であり、3月は▲3,723億円の赤字と前月（▲425億円）と赤字幅が拡大した。原油高や円安で輸入価格が押し上げられたことなどが背景にあると見られる。輸出は、中華圏の旧正月要因で押し上げられた2月の反動が予想されたにも関わらず、前月比+3.3%と増加した。既発表の通関統計で地域別の輸出を見ると、アメリカ向けやASEAN向けが高い伸びとなったことが確認できる。アメリカ向けは好調な自動車販売が、ASEAN向けはタイの大洪水の反動が輸出増加の要因になったようだ。

○ 貿易外収支の内訳

貿易外収支の内訳を季節調整値で確認すると、サービス収支は▲1,327億円の赤字と前月（▲2,183億円）から赤字幅が縮小した。振れの激しいその他サービス収支が黒字に転じたことが主因である。旅行収支は、受取・支払ともに増加したが、支払いの増加幅の方が大きかったことから、赤字幅は拡大した。出国日本人数が増加していることが要因と見られる。輸送収支は、輸出の増加等を受けて受取が増加したことを背景に赤字幅は縮

小した。

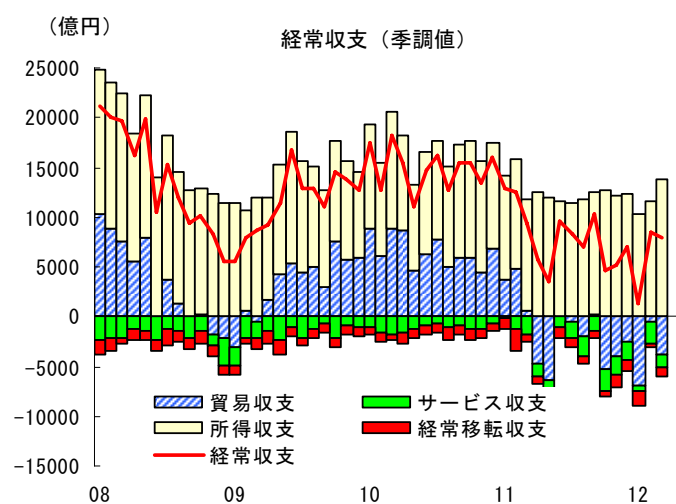
所得収支は、13,821億円の黒字と前月（11,595億円）から黒字幅が拡大した。円安によって、円建ての受取額が押し上げられたことが一因と考えられるが、内訳では直接投資収益の黒字幅の拡大が目立つ。企業の海外進出により対外直接投資が活発化していることを背景に、直接投資収益の受取は増加基調を保っている。

○ 先行きも、経常収支は黒字基調を保つ見込み

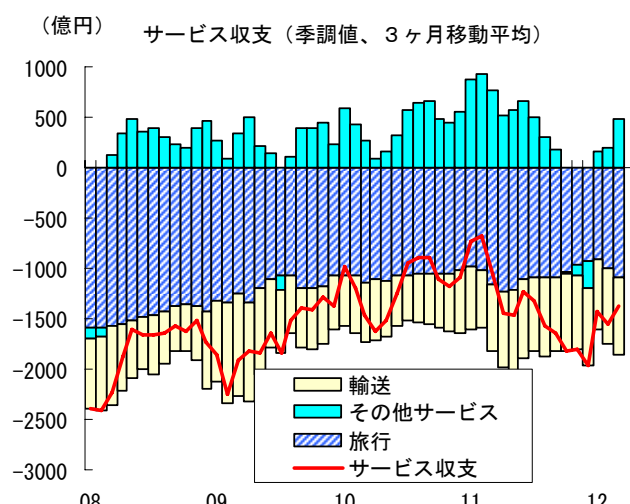
先行きについても、経常収支は黒字基調を保つ可能性が高い。これまでのように貿易収支の赤字を高水準の所得収支の黒字が支える構図が続いていくであろう。

貿易収支については、原発の停止に伴う燃料輸入の増加や高止まりする資源価格を背景に、今後も輸入は高水準となる可能性が高い。一方で、輸出は足元で持ち直しの兆しが見られ、今後海外経済が徐々に回復するにつれて増加していく公算が大きい。したがって貿易収支の赤字幅は徐々に縮小するとみられるが、黒字に転じるまでには時間がかかりそうだ。

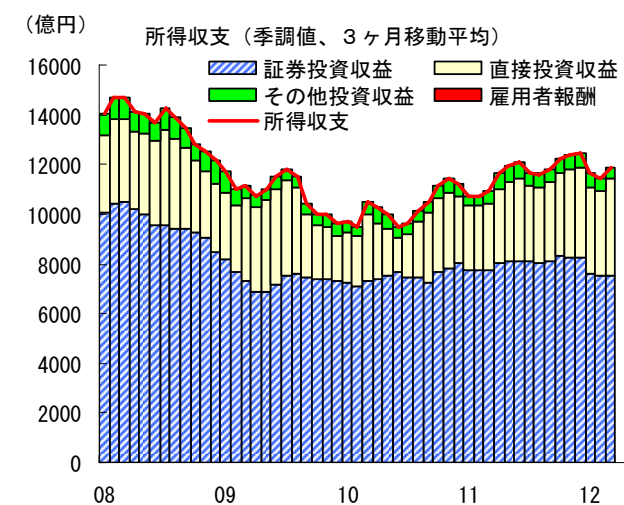
他方、所得収支の黒字は今後も高水準を維持する可能性が高いであろう。金利の低下によって証券投資収益（受取）の収益率が低下することが懸念されるが、豊富な対外純資産から得られる収益は今後も高水準を保つであろう。総じて、経常収支全体としては今後も黒字基調が続いていくと予想する。



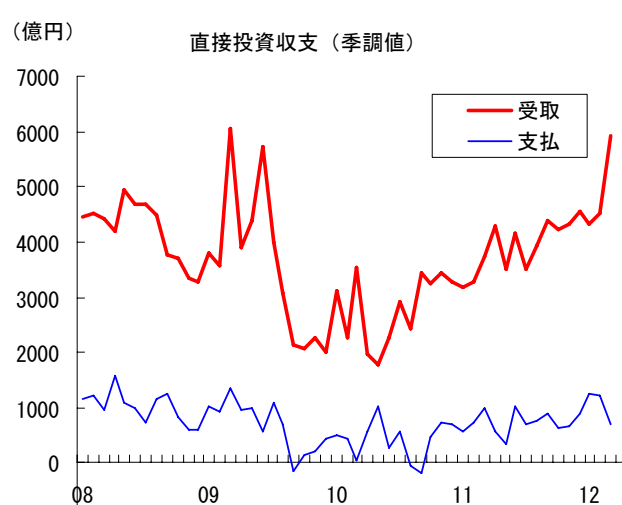
(出所) 財務省「国際収支統計」



(出所) 財務省「国際収支統計」



(出所) 財務省「国際収支統計」



(出所) 財務省「国際収支統計」